

# スマホで夜景を撮影する際のポイント

## ○使い方のコツ

- ・**フラッシュを使わない**でください（人物も撮影する時は使用してください）。
- ・レンズ部の汚れ、曇り、湿気を取り除いてください。
- ・スマホを長時間固定してください。
  - ・脇を締めてスマホを持ちます。
  - ・建物の柱等にスマホを載せます。
  - ・スマホ置き治具やカバン等を活用します。
- ・冬場はスマホを温かい場所に置いてください（電池が長持ちします）。



## ○機能編

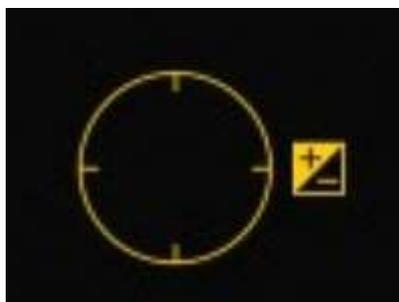
### ◎撮影モードの違い

- ・光源が点滅する場合は通常モード、周囲が明るすぎない場合は夜景モードがオススメです。
- ・画面が白飛びした場合は、撮影した後に画像編集すると良いです（暗くして、コントラストをあげます）。

	通常モード	夜景モード	ポートレートモード
メリット	シャッターを1回押すとすぐに写真が撮影できます。	細かい輪郭まで表現できます。	中心だけ目立たせ、背景をボカす効果が得られます。
デメリット	周囲の光が強いと写真全体が白飛び、白浮きします。	カメラを2 - 4秒間固定する必要があります。 →点滅する光源には向いていません。	ズームが使いません。焦点が合う場所に移動する必要があります。
写真例			
			

## ◎ 明るさの自動補正

- ・スマホのカメラで撮影する画面でピントを合わせたい場所の画面をタップします。
- ・太陽(iPhone)または±マーク(Android)の右側を上下させて明るさを調整します。
- ・画面が白飛びしないように注意してください。



## ◎ HDR効果 (High Dynamic Range)

- ・写真の白飛びと黒潰れを防ぎ、被写体をより鮮明に映し出してくれる機能です。
- 「カフェなどの店内」と「窓の外の日差しが強い風景」の撮影に向いています。

→今回のチームラボの撮影では

**動画撮影の時は「オフ」が良いです。 静止画撮影の時は「ONか自動補正」が良いです。**

- ・HDR撮影は複数枚撮影した写真を合成するため、被写体が動くとブレてしまいます。
- そのため動きのある被写体を撮影するシチュエーションには適していません。
- ・鮮やかな色合いの花やカラフルに盛り付けられた料理など、色彩豊かな被写体をHDR撮影すると発色が抑えられてしまう傾向があります。

通常モード HDRなし



通常モード HDRあり



夜景モード HDRなし



## ○構図編

### ◎ 3分割撮影、日の丸撮影

・スマホを上下左右に3分割のグリッドを表示させ、4つの交点に撮影対象を配置します。



### ◎ 斜め方向からの撮影

・撮影対象を立体的に撮影できます（写真右を参照）。



### ◎ 水の反射を利用

・全体像の2 / 3くらいを水の反射に入れると丁度いいです（個人の好みで割合を変えてください）。



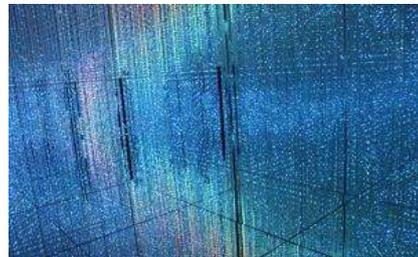
### ◎ 周囲のフレームを利用

・写真の対象物だけを映すのではなく、対象物の周囲をぼかしたり、樹々で囲む構図も効果的です。



### ◎ ミラー効果

・鏡に映した対象物を遠くから撮影することも効果的です。



○チームラボ 金沢城 光の祭

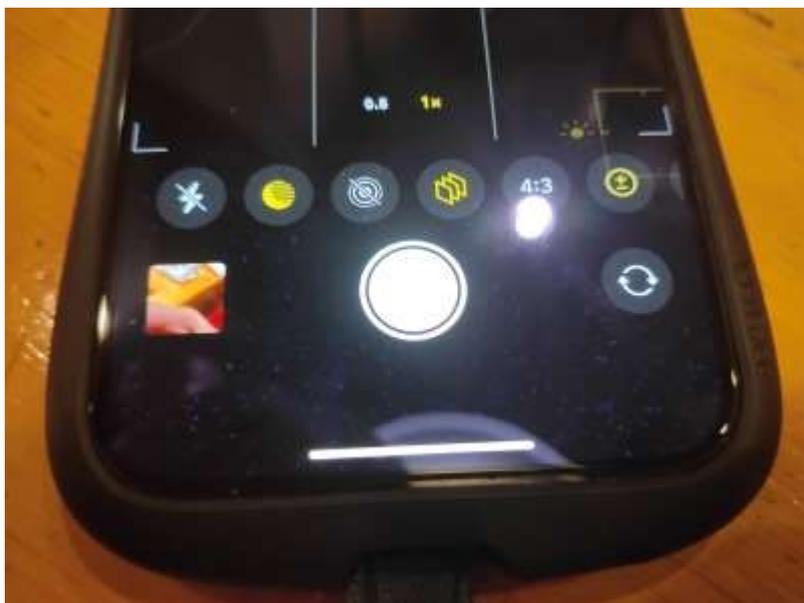


## ◎撮影モード (Androidのみ)

- ・ステッカーモード  
ピントを合わせたい場所の画面を叩くと自動的にピントを調整します。
- ・エキスパートモード  
露光時間、ホワイトバランス、A F 値、E V 値を調整できます。

	EV - 2.0	EV ±0.0	EV + 2.0
EV (光の取り込み量) が違うと全体の明るさが異なります。			
	露光時間 1/500 秒	露光時間 1/50 秒	露光時間 1 秒
露光時間が 1/250 秒を超えると LED の点滅がボヤけて白色に見えます。			

## ◎撮影モード (iPhoneのみ)



左から

- ・フラッシュの有無
- ・ナイトモードの選択
- ・Liveモード  
(最初の 2 秒位動画モードで撮影ができます)
- ・登録した撮影モード  
(3 パターンの色や画質を選択できます)
- ・画像の縦横比
- ・レンズの選択および明るさEV値の調整 (下図参照)

